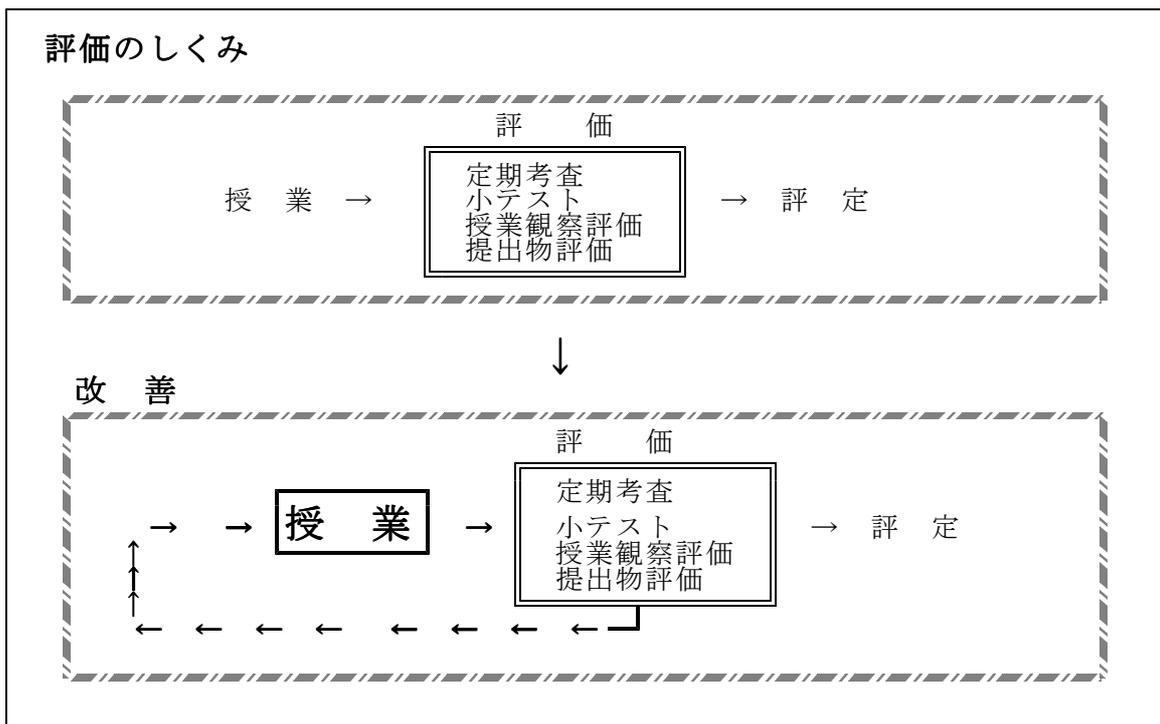


1 はじめに

授業者にとって、学習者の現状を知り、個に応じた適切な指導を展開していくために、客観的評価は重要な意味を持つ。学習指導要領に示された目標を、各授業単元のレベルに細分化し、学習者の到達度を確認し、常に指導方法に改善を加え、適切な方向性を見いだすことに評価の重要性があると考えている。各種テスト、授業観察、提出物などとともに、定期的に学習調査を実施し、生徒の現状を把握し、そこから得られた情報を有効に活用して、生徒一人ひとりに助言・指導としてフィードバックしていくことにより、学習活動への動機付け、及び弱点補強の方策を示し、改善へと導いていくことができた。また、その一方でこうした情報のすべてを、指導者自身にとっても、「授業評価」として授業改善への重要な資料として継続的に活用している。

このように私達教師は、毎日の授業を中心とした教育活動において、様々な評価・観察を繰り返しているが、特にこうした評価の総まとめとして生徒に提示する「評定」は、学習者にとって重要な意味を持ち、慎重に行わなければならない。高等学校においては評定をする際、定期考査のウエイトが非常に高いのが現状である。「授業によって、どのような力を身に付けさせたいか。また、その到達度が定期考査の問題によって適切に評価できるか」という課題解決に向けて、「授業とテストの整合性」を図るための研究を進めてきた。また、定期考査の問題作成について検討していく中で、「評価の役割と意義」についても研究してきたが、ここではその一例を示すと同時に、さらに具体的指導実践例として「授業における工夫」のいくつかを紹介する。ここで提示した内容はすべて、「授業改善」及び学習者一人一人の指導に目を向けた「個の尊重」を目的として行ってきた実践をまとめたものである。



授業と評価の一体化

身に付けさせたい力（それぞれの課の単元目標）が具現化されたもの ⇒

定期考査

授業改善・生徒の取り組む姿勢の改善 ⇔ 定期考査の改善 ⇒

評定

評価の機能（考査、小テスト、ノート、課題、アンケート、自己評価、授業評価など）

- 1、学習者に対する学習達成度の明示。
- 2、段階ごとの現状分析と、課題の提示。
- 3、学習者への動機付け。
- 4、指導方法の再検討と、個を尊重した、より効果的な指導を展開するための手段。

↓

まとめとしての「評価」とともに、「小さなステップとして毎時行う評価活動」の重視へ
「評価によって認められることの喜び」 → 「個の尊重」

「わかる」 → 主体的表現活動 「理解」から「できる」へ

2 定期考査についての事例提示及び検証

定期考査は、二期制の学校であれば、年4回と実施回数は少ないものの、最終的な評定の決定に占める比重は一般に大きい。普段の授業活動との結びつきを明確にした上で、学習者に身に付けさせたい力の定着度を、考査の問題を通して問うことになる。よって、もし「授業時の指導方針及びそれぞれの単元目標」と「評定を決定する上で重要な位置を占める定期考査の出題内容」を一致させていなければ、学習者の授業に対する意欲が低下し、指導効果も薄くなってしまわないだろうか。

さらに、定期考査は、評価のためだけではなく、学習者に対して学習目標、学習方法を示すという点でも大きな役割を持っている。生徒達にとっては、考査問題が普段の学習の目標であり、その出題内容は普段の学習姿勢にも大きな影響を与えることになる。従って、それぞれの問題に対する出題意図を明確にし、出題形式や出題範囲のバランス等を十分検討した上で、慎重に作成していく必要がある。

考査問題例においては、具体的問題事例と、「提案したい問題例とその意図」を示した。

定期考査作成における留意事項

- ①各課、単元における指導目標（単元における評価規準）が問題の中で問われている。
- ②総合問題としての出題を控える。
(各問題ごとの出題意図が不明確であり、考査実施後の分析が困難であるため。)
- ③母国語を離れ英語で考えさせる問題を多くする。
(コミュニケーション能力の育成を指導目標としているのであれば、考査においてもその趣旨の出題がなされなければならない。)
- ④既習内容のポイントが含まれた別の英文により、文法事項の設問を設定する。
(学習項目の単なる丸暗記にとどまらず、「活用できる知識」という段階に高める指導を行うため、こうした形態の出題を通じて学習者に意識付けを行い、その定着を確認する。)
- ⑤英語表現（自由英作文等）の問題を出題する。
(実際場で活用できる英語運用能力の育成を目指すため。)
- ⑥問題数を多くすることにより、広い範囲から学習の到達度を判定すると同時に、学習者に自己の課題を把握させ、さらに学習への意欲を喚起する。

3 授業における指導の工夫（語学習得を訓練として捉えて）

具体的実践項目

- * 2 ラウンド制の授業展開
- * リプロダクション
- * 音読
- * テキストを閉じて行う英語の Q & A
- * サマライズ
- * 英語での思考力養成
 - ・ All English の授業展開
 - ・ 英単語・英文に関して、英語を通しての直接理解

2 ラウンドのリーディング指導とその成果

学習者の自然な英文把握を促すため、第1ラウンドで基本的文法事項とともに全体の概略を把握させた上、第2ラウンドにおいて細部をオールイングリッシュの環境で理解していけるよう、2段階の授業を展開している。

2段階の指導を行うことにより、学習者は無理なく内容を理解することができるようになり、また英語による授業展開においてもスムーズに対応できるようになった。第2ラウンドにおいては、主に英語のみによる Q & A で内容の確認を行い、また既習事項をリサイクルした表現活動として、各自の意見、感想を尋ねる Q & A を仕組むことにより、表現能力も向上し、また自分自身の思いを表現することにより、英語をより身近な存在として捉えることができるようになった。

また、英語のみの活動により、英語での思考習慣が定着し、長時間英語に集中できるようになり、リスニング力・スピーキング力ともに向上した。

「リプロダクション」＋「教科書を見ないで行う英語の Q & A」＋サマライズとその成果

英語の学習は、「模倣」→「操作」→「創造」として進めるべきであり、1・2年次においては特に「模倣」を重視し、表現するための部品を少しでも多く身につけることが重要である。この段階を軽視すれば、後になって既習事項の「操作」が十分行えないため、英語による自己表現へと移行することが困難になってしまう。こうした意味で、日々の授業における教科書内容のリプロダクション活動は有効である。また、リプロダクションは、表現方法を身に付けるため訓練としてだけでなく、英語を読んだり聞いたりする際に、情報を保持するための記憶容量を増やしていく訓練としても有効である。この活動によって、長文を何度も読み返さなくても、ある程度設問に対応することができるようになってきた。また、目的を持って何度も本文を音読せざるを得ない環境を設定することにもなり、授業全般にわたり、大きな声で目的を持った音読を促すことになり、家庭においても自主的に音読する習慣付けができた。

リプロダクションに続いて、教科書を見ることなく、内容に関してのやや発展的な Q & A を行うことにより、英語による思考を促すと共に、これまでの既習事項を何度もリサイクルしていくことで、自分の考えをまとめて表現していく力、内容を要約する力を強化することができた。また、英語での思考を、授業時間全体を通じて継続していく習慣を付けることができた。

また、単元ごとのまとめとして実施しているサマライズ活動では、テキスト1課分（約5セクション）について内容を理解し、メモ等を見ることなく、自分の表現を用いて、理解した内容を他者に伝えていく。リプロダクション活動に加え、自分の言葉で内容をまとめていくことにより、英語のみでの思考を展開し、表現力を向上させていくことができるようになってきた。

当初、本文の英文をそのまま覚えてくる生徒もいたが、次第に慣れ、要点をふまえた上で自分の言葉で表現できるようになってきた。また、教師からのランダムな "Next" の指示により、前者が行ったサマライズの部分を継続していく活動においては、前者の発言を十分に聞き取り、突然区切られた部分より継続していくことになるので、生徒は緊張感を持続させ続けている。リスニング内容を整理しながら常に構えていなければならないため、難しい活動であるが、しだいにこうした活動にも慣れ、楽しく活動している姿が見られるようになった。

4 まとめ

以上 3 に示した実践項目により、学習者である生徒は、単に「示された内容を理解する」という「受け入れ」に留まらず、自ら主体的に英語で表現していこうとする姿へと変化してきたように思う。こうした研究を継続し、今後も授業改善に努めていきたい。